

元マラソン選手 宗茂氏が開設する気功健康塾のツボ 69歳記者の持病をズバリ透視

週間実話 2010年3月25日号

宗茂・猛兄弟と言え、日本で最も有名な兄弟マラソン選手だ。日本の男子マラソン界をリードし、宗兄弟と瀬古利彦の対決は、マラソンファンを熱狂させたものである。その双子の兄・宗茂さん(57)が、旭化成陸上部監督を辞任した後、昨年6月から宮崎県延岡市内に『気功健康塾』を開いた。開設から9カ月。1日で20人ほど気功の施術を行う日もあり、健康の悩み解消に努める“センセイ”として徐々に宗さんの名が知られるようになった。「正直に言いますと、最初は皆さん驚かれるんですよ。選手として指導者としてマラソンに深く関わってきた私が、『気功』をやっていると、何か馴染まないというか、奇異に感じられるようですね」宗さんはこう言って、馴染み深いあの笑顔と白い歯をのぞかせながら、広さ30坪ほどの塾内へ招いてくれた。九州はもとより広島、大阪、東京などから腰痛や肩こり、冷え性やムチウチ、リウマチ、果ては内臓疾患などに悩む人が宗さんの元を訪れるという。しかも、女性が80%に上る。「症状や年齢によって改善の程度はさまざまですが、女性が多いのはホルモンの関係もあるんでしょうね。もちろん、私の“気功”によって、時間の掛かる人もいれば、劇的に症状が消えた方が何人もおられます。『痛みがなくなった。症状が軽くなった』と言って、感謝の言葉を頂くのがとっても嬉しい。それだけでいいんです」(宗さん)

別府大分毎日マラソン、東京国際マラソン、そして北京マラソンなどで6度の優勝。数々の栄光に輝いた世界的ランナーの宗さんが「どうして気功を？」と聞いてみた。「この塾を開いたのは約半年前ですが、私が気功という“新世界”に出会ったのは、実は15、16年前。現役ランナーから監督になって間もない頃ですから結構古いです」宗さんと気功の出会いのきっかけは1通の手紙だった。当時、宗さんのもとには毎日のように全国から郵便物が届く。ファンからの叱咤激励、用具用品やサプリメントの宣伝。また「選手のケガを治します」といったマッサージ師、整体師などからの売り込み…。たいていはマネジャーやスタッフにその手の手紙の処理を任せ、自ら中身を確認することはなかった。だが、ある日、陸上部のポストに詰まった手紙を取り出した。別に理由があったわけでもない。その中の1通を取り出し、読んだところ胸に響くものが。ある気功師からの手紙であった。「詳細は忘れましたが、マラソンは故障に悩む人が多いと聞く。ケガに悩む選手の問題解決に気功の力を利用したらどうか。そんな内容でした。それで、手紙にあった東京の先生の元を尋ねたわけです。運命的というんですか。初めて知った気功という施術に衝撃を受けて以来、胡散臭く思っていたものが吹き飛びました」(宗さん) 現役時代、宗さんも何度もケガや故障と向き合ってきた。監督になっても選手たちのそうした苦痛や悩みに直面。「どうにかしてあげたい。何か出来ることは」と藁にもすがる思いだった。より上を目指そうとするアスリートたちは、自らを極限状態まで追い込んでいくため、ケガも多いし、故障が耐えない。そんな時、東京の気功師からの手紙。その後の出来事を含め、不思議な運命と宗さんは言う。「1つは偶然、私が手紙を取ったこと。気功師のもとを訪れたこと。いままで気功なんてまったく興味がなかった私が今、

気功の世界に魅せられていること。これら一連のことに必然性を感じるんです」旭化成の陸上部監督を弟に譲ったのが'05年。同陸上部の顧問を務める一方で九州保健福祉大学(延岡市)の客員教授として東洋医学を勉強。そして、久留米市の下津浦内科の先生などと協力。症例の整理、分析…気功のメカニズムの解明に役立てようと、勉強しているという。ここからは気功に対する「宗茂論」だ。まず、気功というのは決して「オレが治してやる」といった大上段に構えた施術ではない。あくまで、その人の持っている自然治癒力の回路を開く手助けをして、血行を良くしながら治癒力を高めていくのだ。

実際に記者も施術を受けてみた。宗さんは両手の手のひらを広げ、私の体に近づけ、指先から「気」を送り続けるが、手をかざすだけで体には触れない。立ったまま20～30分すると、何と体がゆっくりと後ろに左右に動き出した。もちろん、夢の世界に入っている訳ではないので、自分の意志で止めようと思えば簡単に動きを止められる。

「それは、強制的に何かの力で動いている訳じゃないのです。体が自然に動き出すわけですから」(宗さん)

手のひらはなおも頭、首、そして腰に近づきゆっくり動いて行く。耳元で宗さんの気を注入する僅かな息づかいを感じ、癒しの曲を聴きながら40分ほどで施術を終えた。宗さんがズバリと言った。「あなたは腰が緊張しています。それも右側が悪いですね。あと胸というか、肺の周辺に軽い症状が出ています。お疲れじゃないですか」施術前に「どこがおかしい。腰が凝ってます」などと告知した覚えはない。それが見事に透視された。特に「胸の辺りに異常が」と言われたのにはドッキリ。自覚症状に心当たりがあったからだ。腰も軽くなっていた。これは不思議だが、事実。お世辞でも何でもないと断言したい。

ここを訪れる“患者”も様々な症状を抱えながやってくる。その一人一人に手をかざし、“気のパワー”を送りながら治癒していく。弟・猛監督の旭化成のクラブハウスへ出向いたり、また来塾した選手のサポートも続けている。

最近、宮崎市内や福岡などに講演で出かける機会も増えている。「マラソンと気功について」の話になるというが、気功については聴衆にスナリと受け入れてもらえないこともある。そんな時、場内から壇上に上がってもらい、衆目の前で気を入れる実演で、納得して貰う事もあるそうだ。

「自分はまだまだ未熟。ただ肉体的に弱い人を、普通の生活が出来るように手助けする仕事として誇りに思います。心身に問題を抱え、悩んでいる方にも踏み込んだ治癒法を研究したい。気功が本物かどうか、あるいはそれがどう作用したかは二の次。私の元を訪れたことで症状が軽くなり、喜んでもらえるなら何よりなんです」(宗さん)

最後に「気を入れたので帰りは眠くなるかもしれませよ」と宗さんは笑顔で見送ってくれた。